

エコアクション21

環境活動レポート

対象期間 平成 29(2017)年 5 月 1 日～平成 30(2018)年 4 月 30 日)

発行日 平成 30 年 9 月 10 日

改定日 平成 30 年 9 月 19 日

食用油脂の販売から回収・リサイクルまでトータル提案いたします。



Total suggestion for edible oil

再資源化を考える食用油脂の総合カンパニー

有限会社 山田商店

目次

I. 組織概要	2
II. エコアクション21 組織体制図	5
III. 環境方針	6
IV. 環境目標	7
V. 環境活動計画	8
VI. 実績	9
VII. 環境活動の取組み結果とその評価・次年度の取組内容	10
VIII. 環境関連遵守等評価	11
IX. 代表者による全体の評価と見直し	12

I. 組織概要

① 事業所名及び代表者

有限会社 山田商店 代表取締役 山田 靖雄

URL : <http://yamadashoten.info/>

② 所在地

本 社 : 住 所 : 名古屋市港区築盛町 7 3 番地の 3

電 話 : (052) 654 - 1330 F A X : (052) 652 - 2630

第 1 工場 : 所在地 : 名古屋市港区本宮新町 4 1 番 敷地面積 353.71 m²

電 話 : (052) 652 - 5116 F A X : (052) 652 - 5117

第 2 工場 : 所在地 : 名古屋市港区本宮新町 8 2 番 敷地面積 337.00 m²

③ 資本金

600 万円

④ 創立年月日

昭和 37 年 7 月

平成 8 年 5 月 1 日 (法人化)

⑤ 事業活動

産業廃棄物収集運搬業及び産業廃棄物処分業、

廃食油のリサイクル、食用油脂及びリサイクル石鹼の販売

⑥ 事業の規模 (全社)

事業年度 5 月 1 日～4 月 30 日

決算期総売上 (全社) 13,986 万円 (H 29 年度)

従業員数 7 名 (平成 30 年 4 月 30 日 現在)

⑦ 認証登録範囲

全組織及び全事業

今年度活動期間 平成 29 年 5 月 1 日 ～ 平成 30 年 4 月 30 日

次年度活動期間 平成 30 年 5 月 1 日 ～ 平成 31 年 4 月 30 日

次年度環境活動レポート発行 平成 31 年 8 月 (予定)

⑧ 環境管理責任者及び環境管理事務局連絡先 (電話番号等)

環境管理責任者 : 常務取締役 山田 武男

環境管理事務局 : 業務部リーダー 八反田 博

連絡先 : TEL (052) 654-1330 FAX (052) 652-5116

E m a i l : t_sl_yamada@major.ocn.ne.jp

⑨ 産業廃棄物処理量

(1) 収集運搬事業

受託した産業廃棄物の処理量 (収集運搬量)

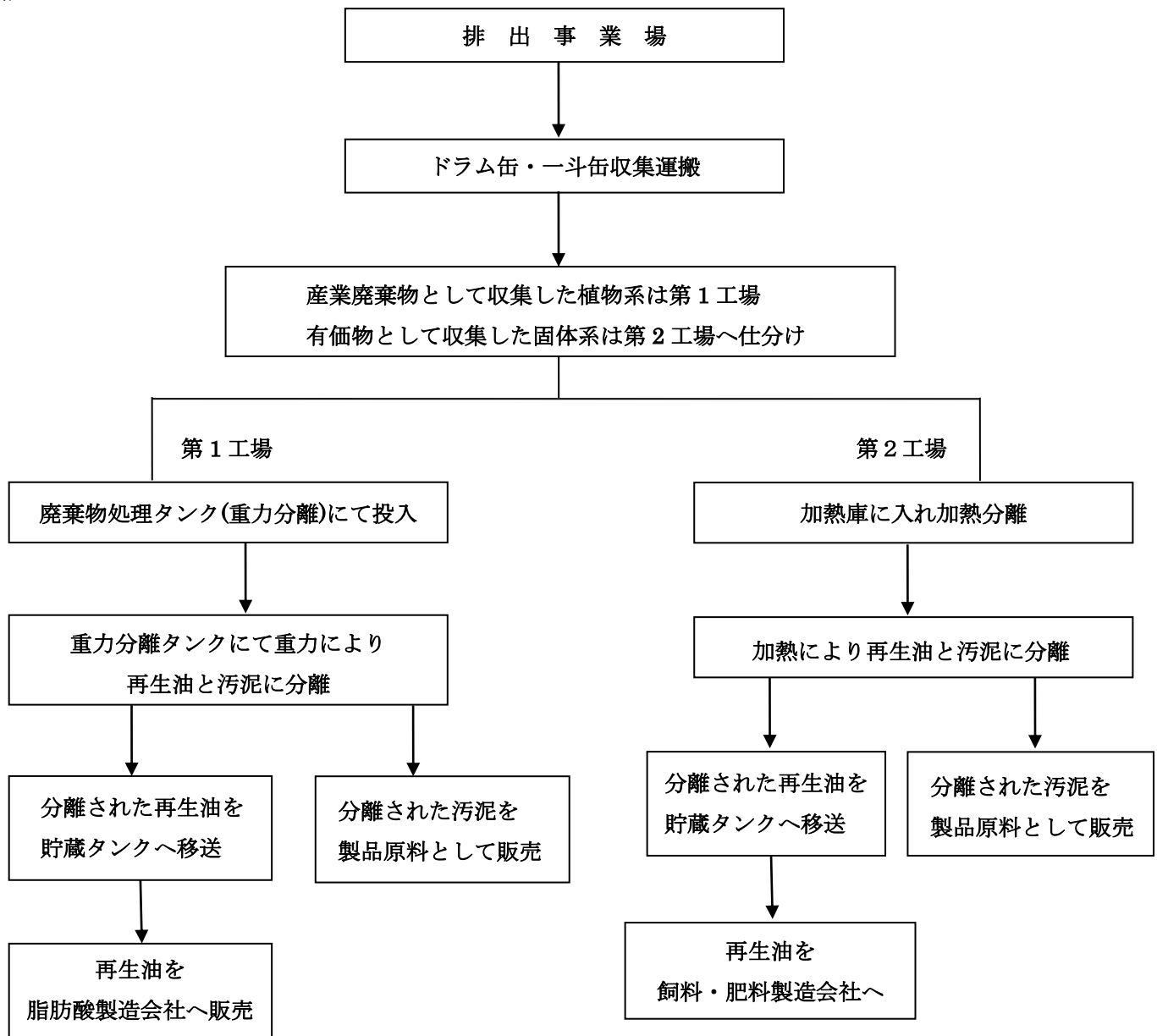
廃 食 油 : 2,200 t 平成 29 年度 (H 29/05/01 - H 30/04/30)

(2) 処分事業【中間処理】

処理する産業廃棄物の種類：廃食油（食品廃棄物）

処理実績：2,200 t 平成 29 年度(H 29/05/01 - H 30/04/30)

廃油処理フローシート



第1工場から出荷された再生油は化粧品原料となる高純度の脂肪酸に再生され、石鹼製造会社にて手肌
に使える高品質のリサイクル石鹼に生まれ変わり、産業廃棄物排出事業者様にて再利用して頂く循環型
社会・ゴミゼロ (Zero Emission) の構築の提案をしています。

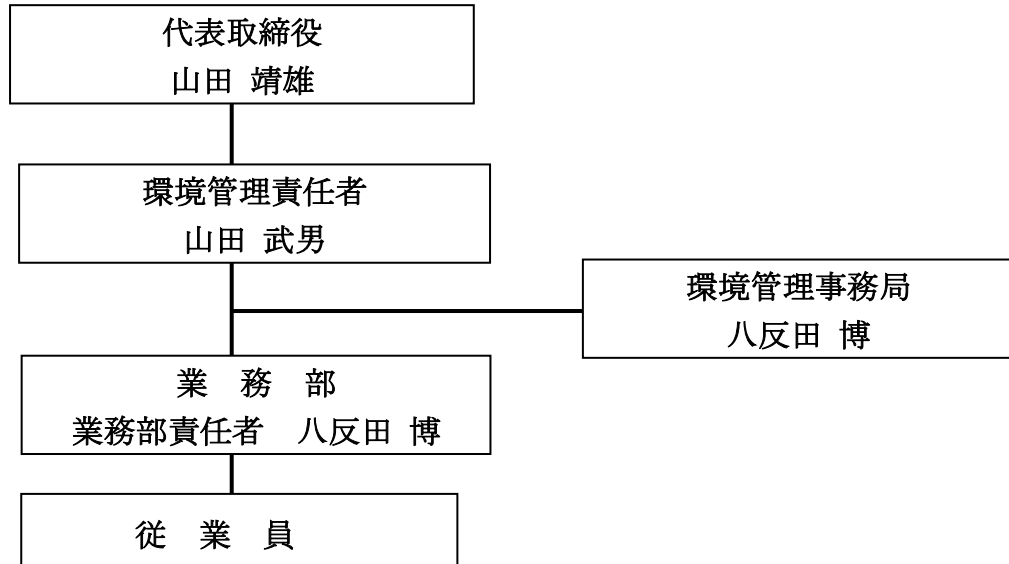
⑧ 許認可関係

【収集】	許可及び登録の内容	許可登録番号	許可交付年月日	許可の期限
愛知県	産業廃棄物収集運搬業	第 02300061504 号	平成 26 年 6 月 7 日	平成 31 年 6 月 6 日
岐阜県	産業廃棄物収集運搬業	第 02100061504 号	平成 25 年 4 月 24 日	平成 35 年 4 月 23 日
三重県	産業廃棄物収集運搬業	第 02400061504 号	平成 26 年 6 月 23 日	平成 31 年 6 月 11 日
大阪府	産業廃棄物収集運搬業	第 02700061504 号	平成 26 年 5 月 26 日	平成 31 年 5 月 25 日
<p>[許可品目]</p> <p>愛知県：汚泥、廃油、廃プラスチック類（自動車等破砕物及び石綿含有産業廃棄物を除く。）、木くず、金属くず（自動車等破砕物を除く。）、ガラスくず・コンクリートくず（工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたものを除く。）及び陶磁器くず（自動車等破砕物及び石綿含有産業廃棄物を除く。）</p> <p>岐阜県：廃油</p> <p>三重県：汚泥、廃油、廃プラスチック類（石綿含有産業廃棄物を除く。）、木くず、金属くず、ガラスくず等</p> <p>大阪府：廃油</p> <p>[収集運搬許可車両の種類]</p> <p>ワンボックス 1 t 車 3 台（ガソリン車 1 台 軽油車 2 台）</p> <p>トラック 4 t 車 1 台（ポンプ装着）</p> <p>3 t 車 1 台（ポンプ装着コンテナ車）</p> <p>3 t 車 1 台（ハイブリット）</p> <p>2 t 車 1 台</p> <p>軽ワンボックス 1 台（ガソリン車）</p>				
【処分】	許可及び登録の内容	許可登録番号	許可交付年月日	許可の期限
名古屋市	産業廃棄物処分業	第 06420061504 号	平成 26 年 3 月 1 日	平成 31 年 2 月 28 日
<p>処分事業【中間処理施設】</p> <p>[事業範囲]</p> <p>産業廃棄物処分業取扱品目：汚泥、廃油</p> <p>処理する産業廃棄物の種類：廃食油（食品廃棄物）</p> <p>処理能力：日量 28.8 m³/日（24 時間）処理</p> <p>処理方式：重力分離方式処理</p>				

Ⅱ. エコアクション 2 1 組織体制図

有限会社 山田商店

組織体制を平成 28(2016)年 1 月 5 日より下記の新組織体制図(第 1 工場・第 2 工場)の通りとする。



代表取締役	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針の策定及び誓約・公表 ・経営資源の準備(人材・資金・育成等) ・環境活動に必要な資源の確保 ・環境経営システム全体の評価と見直し ・環境活動計画書の承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・EA21 システムの確立・実施 ・環境負荷・取組への自己チェックの承認 ・環境目標及び環境活動計画の策定 ・環境関連法規の取りまとめ及び遵守状況の承認 ・環境活動レポートの作成・承認 ・教育・訓練計画の策定と実施 ・緊急時対応訓練推進 ・環境活動の取組結果の代表者への報告
環境管理事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境負荷・取組みへの自己チェックの実施 ・環境関連法規の取りまとめ及び遵守状況の確認 ・環境文章及び記録の作成・管理 ・環境活動レポートの作成
従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針、環境目標を理解し、環境への取組みの重要性を自覚 ・自主的、積極的に環境活動へ参加

Ⅲ. 環境方針

『環境理念』

私達は、廃食油の収集運搬・処分事業者として住みよい環境を創造する為にリサイクル技術・知識・活動を通じ環境問題に対し企業の社会的責任を深く認識し持続可能な循環型社会の形成・維持を全社員一丸となり貢献します。

当社は「100%リサイクル」を目標とし、「人材育成」に力を注ぎ、道徳心のある社員づくりに全力で取り組みます。

『環境方針』

1. 環境関連法規制の遵守

環境に関する諸法規及び環境条例、その他当社が同意する協定等の要求事項を遵守し、企業の社会的責任を果たします。

2. 二酸化炭素排出量の削減

電気、化石燃料などの使用量を削減し、環境負荷の抑制に努めます。

3. 廃棄物の削減・リサイクル

廃棄物の分別と資源リサイクルを促進し、最終処分量を減らし、循環型社会の形成に貢献します。

4. 水使用量の削減・グリーン購入

節水に努め、水使用量の削減に取り組み、グリーン購入を促進し、資源を有効活用します。

5. 環境管理体制

環境方針を全社員に周知し、環境目標を設定し、定期的に見直すことにより、継続的に環境改善に取り組みます。

6. 環境コミュニケーション

環境活動レポートを社内外に広く公表します。

7. 環境教育

環境教育を全社員に行い、人材育成に努めます。

制定日：平成 26（2014）年 10 月 29 日

改定日：平成 29（2017）年 6 月 1 日

有限会社 山田商店

代表取締役 山田靖雄

IV. 環境目標

項目	単位	基準値	目標		
		H 25 年度	H 29 年度	H 30 年度	H 31 年度
		(H24/5～ H25/4)	(H29/5～ H30/4)	(H30/5～ H31/4)	(H31/5～ H32/4)
1. 電力使用量削減	kWh	7,464	7,240	7,165	7,090
			-3%	-4%	-5%
2. 灯油使用量削減	ℓ	126	122	121	120
			-3%	-4%	-5%
3. 都市ガス使用量削減	m ³	4,400	4,268	4,224	4,180
			-3%	-4%	-5%
4. LPG 使用量削減	kg	130	126	125	124
			-3%	-4%	-5%
5. ガソリン使用量削減	ℓ	2,451	2,377	2,353	2,328
			-3%	-4%	-5%
6. 軽油使用量削減	ℓ	21,280	20,641	20,429	20,216
			-3%	-4%	-5%
7. 二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂	75,369	73,108	72,354	71,600
			-3%	-4%	-5%
8. 一般廃棄物排出量削減	kg	1,800	1,746	1,728	1,710
			-3%	-4%	-5%
9. 水使用量削減	m ³	265	257	254	252
			-3%	-4%	-5%
10. グリーン購入の向上	品目	データ不備	3	3	3
11. 地域貢献活動 (道路清掃活動)	毎朝	1	1	1	1
	(回)				
12. リサイクル製品の 積極的拡大	t	1,780	1,833	1,851	1869
			+3%	+4%	+5%

注1. 電力排出係数 : 中部電力 H24 年度排出係数 0.516 を使用

2. 化学物質は使用していません。

3. グリーン購入: グリーン適合商品購入は、事務消耗品について取り組む

4. リサイクル製品の積極的拡大は、平成 26 (2014) 年度を基準として管理する。

5. 上記の目標の他、工場環境及び品質安全向上の為に、3S 活動 (整理・整頓・清掃) に取り組む。

V. 環境活動計画

方針	取組項目	活動計画の内容	担当者
二酸化炭素排出量の削減の推進	電力消費量の削減 (kWh)	① 不用時の消灯 ② 機械設備・OA 機器などのスイッチオフ ③ エアコンの温度管理(夏季 28℃± 1℃)	山田 武男
	ガソリン消費量の削減 (単位：ℓ)	① 不要積載物の有無・タイヤ空気圧の確認 ② 出発前の車両点検の徹底	八反田 博をリーダーとして全ドライバー
	軽油消費量の削減 (単位：ℓ)	③ 暖機運転・アイドリングストップ ④ 環境に配慮した稼働	
	灯油消費量の削減 (単位：ℓ)	① ストープの温度管理(冬季 20℃± 1℃)	山田 武男
	都市ガス消費量の削減 (単位：m ³)	① 効率の良い加熱器・ボイラーの設定温度管理	山田 靖雄
一般廃棄物排出量の削減	分別及びリサイクルの推進 (単位：kg)	① 使用済みコピー用紙を再利用する ② 無駄な資機材を購入しない ③ 廃棄物を分別し、リユース・リサイクルを徹底する	山田 武男
水使用量の削減の推進	事業所利用水の節水 (単位：m ³)	① 工場内床洗浄・洗車方法や洗車回数の管理 ② 全従業員の節水意識の向上	八反田 博をリーダーとして従業員
製品またはサービスの環境配慮の推進	リサイクル油脂商品の積極的な販売 (単位：t)	① リサイクル油脂商品の販売を増やす ② 展示会等への出展し リサイクル 油脂商品の紹介。	山田 武男
グリーン購入の推進	事務用品・消耗品のエコ商品の購入 (単位：%)	① 事務用品・消耗品は、エコマーク商品に切替える。 (グリーンステーションカタログを参照する。)	山田 武男
地域の環境活動に参加	地域の美化活動に参加する (単位：回)	① 地域の清掃活動に参加する	従業員

VI.実績

環境目標と実績

取組み期間 H 29(2017)年3月1日～H 30(2018)年4月30日

項目	単位	H 29 年度	H 29 年度	達成率	評価
		目標	実績		
01. 電力使用量削減	kWh	7,240	6,374	113	達成
		-3%			
02. 灯油使用量削減	%	122	160	76	未達成
		-3%			
03. 都市ガス使用量削減	m ³	4,268	7,874	54	未達成
		-3%			
04. LPG 使用量削減	kg	126	60	210	達成
		-3%			
05. ガソリン使用量削減	%	2,377	2,099	113	達成
		-3%			
06. 軽油使用量削減	%	20,641	17,267	120	達成
		-3%			
07. 二酸化炭素排出量削減	kg-CO2	73,108	70,654	103	達成
		-3%			
08. 一般廃棄物排出量削減	kg	1,746	2,165	81	未達成
		-3%			
09. 水使用量削減	m ³	257	296	87	未達成
		-3%			
10. グリーン購入の向上	品目	3	3	100	達成
11. 地域貢献活動 (道路清掃活動)	回	1	1	100	達成
	(毎朝)				
12. リサイクル製品の積極的拡大	t	1,833	2,200	120	達成

注1. リサイクル製品の積極的拡大については、基準年度をH 26 (2014)年度として管理する。

2. 達成率は、目標/本年度実績×100で算出する。

VII. 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

環境目標項目	評価	環境活動計画実施状況 達成・未達成の要因	次年度環境活動計画への 追加・変更
1. 電力使用量の削減	達成	・全従業員が節電の意識向上により 不必要な照明の消灯	・現在の活動を継続する。
2. 灯油使用量の削減	未達成	・第2工場事務所開設(H27.05)・温水 高圧洗浄機購入により灯油使用量の 増加	・現在の活動を継続し、基準値 の改定を含め今後の目標を 検討する
3. 都市ガス使用量 削減	未達成	・固体系油脂使用の排出事業者増加の 為。	・現在の活動を継続し、基準値 の改定を含め今後の目標を 検討する
4. LPG 使用量の削減	達成	・『適水温度』の掲示を継続	・現在の活動を継続する
5. ガソリン使用料の削減	達成	・「エコドライブ」の告知ラベルの提示	・エコドライブ継続運用
6. 軽油使用量の削減	達成	・収集運搬車運転者の回収ルート の効率化等の環境意識の向上結果と 評価している。	・エコドライブ継続運用
7. 二酸化炭素排出量 削減	達成	・項目2・3による	・項目2・3の対応実施
8. 一般廃棄物排出量 の削減	未達成	・第2工場の本格的稼働により一 般廃棄物の増加による。	・基準値の改定を含み今後 の目標を検討する。
9. 水使用量削減	未達成	・第1・2工場内床の温水高圧洗 浄を毎月行う事により使用量の 増加。	・現在の活動を継続し、基準値 の改定を含め今後の目標を 検討する
10. グリーン購入 の向上	達成	・事務消耗品・工場で使用する石鹼（手 洗・洗濯・洗車）は、Eコマース商品を使用	・現在の活動を継続する。
11. 地域貢献活動 （道路清掃活動）	達成	・毎朝、各工場周辺道路等の清掃	・毎朝実施
12. リサイクル製品の 積極的拡大	達成	・営業による資源物新規顧客開拓	・新規顧客開拓

[総括]

- ・環境活動を始めたことで、環境負荷の現状を把握することが出来た。また、データを出すことで、数値を意識しながら事業活動ひとつひとつに細かい対応ができるようになった。今後は、個別評価も取入れながら社員への意識づけをより高くして、目標達成に向けて一丸となって取り組んでいきたい。
- ・環境目標未達成項目に関しては、平成29年度を経過観察とし実績を元に基準値の改定を行う。

VIII. 環境関連等遵守評価

環境関連法等の遵守状況

1. 環境関連法規・条例等の規制事項につき、環境関連法規等遵守評価表によりチェックした結果、環境関連法規・条例違反は、ありませんでした。
2. 環境に重大な影響を与える事故、並びに外部からの環境に関する苦情等ありません。
3. 環境に関する訴訟も過去 3 年間ありません。
環境関連の法規等遵守評価については、下表の通りです。

チェック日：H 30 (2018)年 4 月 30 日

適用法規	該当設備施設	法規の要求事項	評価結果
廃棄物処理及び清掃に関する法律	[排出事業者として] ・一般廃棄物 (紙ごみ) ・産業廃棄物 (汚泥) [収集運搬事業者として] ・産業廃棄物 [処分事業者として] ・産業廃棄物	保管場所表示、保管基準の順守	○
		運搬・処分業者との委託契約	○
		マニフェストの交付・回収	○
		マニフェスト交付状況の報告	○
		自社運搬の場合運搬車輛への表示、マニフェスト携帯	○
		収集運搬業許可証の更新	○
		処分業許可証の更新	○
		排出事業者との契約	○
		運搬車両への表示、マニフェスト、許可証の携帯	○
名古屋市産業廃棄物等の適正な処理及び資源化の促進に関する条例	排出業者として	産業廃棄物の運搬・処分業者の定期的な確認	○
		市外産業廃棄物処分の届出等	○
		環境保全に関する近隣関係との協議	○
		事故報告	—
市民の健康と安全を確保する環境保全に関する条例	排出業者として	アイドリングストップ	○
家電リサイクル法	テレビ・エアコン・冷蔵庫洗濯機	買換時リサイクル料負担、適正処理	該当事例無し
自動車リサイクル法	塵芥車台・ダンプ車台	車検又は買換時リサイクル料負担、適正処理	該当事例無し
道路運送車両法	運送車両	車検	○
消防法	受入建物・屋外	消防用整備点検(1回/3ヶ月)報告	○
火災予防条例(名古屋市)	指定可燃物	届出(変更)	○

IX. 代表者による全体の評価と見直し

エコアクション21活動後、自社の環境負荷が数値として把握することができました。

当社の事業自体が廃食油を再資源化する環境事業であるということを自覚し、当事業所から発生するCO2、廃棄物の削減こそが環境負荷低減に大きく寄与するものと確認しております。

全体的評価として、エコアクション21に参加し環境経営システムの運用を始めて4年が経過し従業員の環境意識も年々高まり継続して達成している目標もあれば、業務拡大の為、第2工場の稼働により環境への負荷が増加し28年度と同じ目標値未達成項目もある。29年度を経過観察としたが環境目標未達成項目の基準値の見直しが必要である。

次年度に向けて更なる事業の効率化によるCO2の削減と廃食油リサイクル処理に係る廃棄物の全量再資源化に努め、お客様へのリサイクル石けんの導入を推進・拡大し、循環型社会の実現に貢献していきさらに今まで以上に環境意識の向上をはかり、環境活動に取り組むことで、電気・水・ガソリン・軽油使用量の削減を全社員で目指していきたいと思います。

平成30年7月10日
有限会社 山田商店
代表取締役 山田靖雄